

平成30年度 学校評価【最終報告】

(1) 「確かな学力」を身につけ、「夢」や「志」の実現に粘り強く挑戦する生徒の育成

A：満足 B：やや満足

C：やや不満 D：不満

項目	部・学年	目標（課題）	評価指数	最終報告	A	B	C	D	スコア4点	最終評価	次年度へ向けた展望	学校評議員・学校関係者評価委員の提言
①学習習慣の確立と学ぶ意欲・態度の涵養(教科)	国語	小テストや問題演習を定期的に行い、知識の定着を計る。	平均70%以上の得点率を目指す。	平均得点率は60%前後であった。問題演習を複数回行った。	26.7	53.3	20.0	0.0	3.1	B	小テストをこまめに行い、平均得点率が70%以上になるよう、引き続き指導していく。	・小テストを反復、継続して実施することは、生徒の学力向上に役立つ。引き続き基礎力アップのため実施して欲しい。 ・小テストを継続することで家庭での学習習慣に繋がり、その結果により意欲向上に繋がっている。 ・英語がないのはなぜか。国数いにおいて実施されていることは評価するが、英語においても小テストを実施して評価するべき。
	数学	問題演習時に生徒に発表・解説を行わせ、短いスパンでの定期的な小テストを実施する。	理解度、伝える力を向上させ、80%の生徒が満点をとる。	満点の生徒は80%を超えた。授業内発表も活発に行っている。	20.0	73.3	6.7	0.0	3.1	B	小テストを定期的に行い、平均得点率・満点率を上げていく。	
		理系生徒へ記述式の週末課題の実施。	提出率100%。	21週まで実施し、提出率は100%。週末課題を終了し、早朝補習にシフトした。	57.1	35.7	7.1	0.0	3.5	A	週末課題や補習など、理系の林路実現のための演習を継続する。	
	理科	日常生活から具体例を示し、観察・実験を行う。	授業満足度を75%にする。	演示実験を積極的に行った。生徒が行う実験を複数回行った。	0.0	90.9	9.1	0.0	2.9	B	実験の回数を増やし、生徒が主体的に学ぶ機会を増やしていく。	
	家庭	単元ごとに課題を出し、単元理解を深められるようにする。	課題提出率100%	課題提出遅れは数名いるが、未提出にならない指導は継続している。また、課題返却時に内容についてのフォローをすることで理解度を深められるようにした。	11.1	77.8	11.1	0.0	3.0	B	単元ごとの課題内容の精選と、効果的な実施時期を検討したい。	
①学習習慣の確立と学ぶ意欲・態度の涵養(学年)	情報	チーム・ティーチングを活用しながら、生徒個々に応じたいい指導を行い、習熟度を高める。	情報処理検定試験合格者を40%にする (H29 32%)	24名受験し、11名合格 (46%)	11.1	77.8	11.1	0.0	3.0	B	筆記と実技の指導バランスを見直し、40%程度の合格率を継続させたい。	
	1学年	朝のSHRを利用した小テストを実施の実施や週末課題により、学習習慣の定着と基礎学力の伸長を図る。	各教科平均70%以上の正答率を目指す。	英単語テスト平均75%、国語漢字小テスト67%の正答率。トータルでは70%を超える。	21.4	57.1	21.4	0.0	3.0	B	各教科ごとに正答率を70%を超えるよう、力を入れていく。	
	2学年	8:35登校を利用した国、数、英の小テストを実施し、学習習慣の定着と基礎学力の伸長を図る。	各教科年間20回以上小テストを実施し、平均70%以上の正答率を目指す。	年間22回の小テストを実施した。国語68%、数学81%、英語65%の正答率で全体では70%を超えた。	36.4	54.5	9.1	0.0	3.3	A	継続して朝の国、数、英の小テストを実施し、学習習慣の定着と基礎学力の伸長を図る。	
3学年	年間を通じて進学・就職それぞれの進路目標に応じた希望者補習を実施し、生徒の進路意識と学力を高め、目標とする進学・就職先への合格者を増やす。	大学・短大進学希望者の進学率80%以上、学校幹旋の就職希望者の就職内定率100%を達成する。	最終的に学校幹旋就職を希望した生徒は皆それぞれ希望の職種に合格した。また、一般入試に向けて、現在も多くの生徒が奮闘中である。	6.7	73.3	20.0	0.0	2.9	B	高大接続改革への対応を念頭に、新しい学力観に即し、かつ進路多様校である本校に合った学力の伸長を図る。		
②生徒個々の適性を見極め、能力を伸ばす進路指導	進路指導	生徒の進路希望に応じて適切な時期に情報提供ができるようにするとともに、個々に応じた丁寧な進路指導を行う。	最終進路先「未定」の者の割合が10%以下となるように学年と連携を図る。	学校幹旋就職希望者全員の内定を獲得した。センター試験も30名受験をし、進学に関して最終的かつきめ細やかな進路指導を学年と共に実践中である。	60.0	20.0	20.0	0.0	3.4	A	今年度入試で不本意な結果となった生徒が、次年度浪人をして再度チャレンジする際、調査書の発行を申請するので、その際にも家庭環境等、総合的な配慮の下、きめ細やかな進路指導が実施できるよう、学年団より情報の引き継ぎをおこなう。	
	キャリア教育推進委員会	従前のキャリア教育の研究を継承し、本校独自の取組を実施していく。新制度の大学入試に対応できるよう、紙のポートフォリオの蓄積を提唱する。	委員会を中心にキャリア教育の研修会を2回実施する。	各学年ごとに模試の結果分析研修会を2～3回実施済み。ポートフォリオ用ノートを新規作成し、職員会議に1月に諮った。今後は、4月上旬に全学年配布を目指して校正の予定。	46.2	23.1	30.8	0.0	3.2	B	生徒のポートフォリオの記入の習慣化に向けて、職員一丸となって生徒への声掛けを定期的に行えるよう、環境整備をおこなう。	
③わかる授業の工夫とアクティブな学びに向けた研究授業の実施(教科)	国語	授業内でのペアワーク・グループワークの要素を取り入れ、自分の考えを伝える機会を増やし、授業内での言語活動をさらに充実させる。研究授業、生徒による授業アンケートを実施する。	主体的に取り組む生徒を80%以上にする。研究授業、アンケートは各学期に1回実施し、実践内容及びアンケート結果を共有する。	ペア音読やワークシートを用いた学習などを積極的に行った。	0.0	90.0	10.0	0.0	2.9	B	書く・話すなど、生徒が自分の考えや教材から学んだこと、理解したことなどを発信する機会を設けたい。	
	地公	学んだ内容が理解できているか、生徒に積極的に発言させたり、文章に自分の言葉で書かせる。	研究授業をおこない、教科内で取り組みの成果を共有する。	2学期に公開授業を実施。教員から知識・教養を伝えるだけの一方的な授業ではなく、生徒からの発信をどのように引き出すかが課題である。	16.7	50.0	33.3	0.0	2.8	B	生徒が主体的に考えるための知識・理解をどのように精選して伝えるか、1つの授業で何が得られたかを生徒が認識できるような授業の構成を考えていきたい。	
	数学	教科内で様々な授業展開(講義型・対話型・集団型)を実践する。	公開授業を学期に1回行い、2学期には研究授業および事後研究会を実施する。	11月2日に研究授業を行った。他校の先生にも見に来ていただき、事後研究も行った。また、ジグソー法について近畿大会で発表を行った。	69.2	23.1	7.7	0.0	3.6	A	毎年研究授業を行う。生徒の状況を常に観察し、その集団にあった授業スタイルを模索する。	
	理科	教科内でのアクティブ・ラーニングの導入に向けての研究授業研究会を実施する。	研究会を学期に1回行い、成果をまとめる。	公開授業を実施し、意見交換を行うことができた。	20.0	70.0	10.0	0.0	3.1	B	グループワークや発表の機会を増やし、定着度を高める。また、公開授業を積極的に行い、授業力向上に努める。	
家庭	単元前後にアンケートを実施し、学習に対する取り組みや理解度を計る。また、単元ごとにグループワークや自分の意見をまとめる授業を設定する。	学習後の授業理解度を80%にする。公開授業でグループワークを取り入れた授業を設定し、校内で共有できるようにする。	2学期後半の衣生活分野の理解度は、分野全体では70%であるが、身近な事例や実習に関する内容の理解度は高かった。住生活分野全体の理解度は65%であり生徒の興味関心の差が理解度にも反映されている結果となった。	0.0	50.0	50.0	0.0	2.5	B	生徒の理解度が低く、また実体験に基づきにくい内容に関しては授業の進め方などの工夫をするとともに時間配分などを検討したい。		

・生徒の進路希望を早期に決定することは必要。それにより生徒それぞれに適合した進路指導ができる。

・グループ討議や提案は重要であり、学生時代から取り入れる事は今後社会人となった時にも活用される。

	情報	授業内での対話の機会を増やす。	授業アンケートで本取組の満足度80%を目指す。	1学期アンケート結果51.3%、2学期アンケート結果31.4%。単元の中に発言等の時間をこれまでより多く取り入れることができた。	12.5	37.5	50.0	0.0	2.6	B	意見交換や発言を積極的に行うことは本校生は得意なことではないが、引き続き授業の中に取り入れていきたい。
③わかる授業の工夫とアクティブな学びに向けた研究授業の実施	2 学年	総合的な学習の時間の、能動的・協働的な取り組みを通じて、AO入試・推薦入試等に関する理解を身に付けさせる。	総合的な学習の時間を全員が履修・習得する。	総合的な学習の時間で修学旅行事前学習やキャリア教育の内容を、全員が履修・習得することができた。	75.0	8.3	16.7	0.0	3.6	A	2単位ある総合的な学習の時間に、自ら学ぶ姿勢と意欲を持って臨み、各自の進路実現に結びつけたい。
	3 学年	各教科及び総合的な学習の時間の授業に、自ら学ぶ姿勢と意欲を持って臨み、各自の進路実現に結びつける。		特に特色類型の実習授業での体験等を生かし、多くの生徒が進路実現を果たした。	61.5	30.8	7.7	0.0	3.5	A	進路多様校である本校の実態に即して多様な学力の伸長を図り、自己実現につなげる。
	教育課程委員会	学力向上委員会と連携し、各教科で公開授業や研究授業を実施する。	各学期に1度、各教科で公開授業を実施し、その後教科の研修会を持つ。	各学期に1度、公開授業週間を実施した。また、年間を通してオープン授業制度を実施し、気付きを共有する等、わかる授業とアクティブな学びの実現に継続的に取り組んだ。	5.9	70.6	23.5	0.0	2.8	A	高大接続改革への対応を念頭に、進路多様校である本校に合った学力の伸長につながる授業のあり方への共通理解・認識を深める。
	学力向上委員会	授業公開週間を中心に、年間を通じて公開授業を行い、学力の三要素をバランスよく取り入れた授業のあり方を検討・研究する。									

(2) 思いやりの心と規範意識を持ち、共生社会の実現を目指す人間性豊かな生徒の育成

項目	部・学年	目標(課題)	評価指数	最終報告	A	B	C	D	スコア4点	最終評価	次年度へ向けた展望	学校評議員・学校関係者評価委員の提言
①社会のマナーやルールを尊重し、他者を思いやる心を育む生徒指導	1 学年	積極的な生徒指導を実践し、特別指導件数を減少させる。	特別指導件数を年間5件以内にする。	年間で特別指導件数が6件であった。しかし、中間報告以降、特別指導は起きておらず、生徒には成長も見られる。	0.0	50.0	50.0	0.0	2.5	B	面談や集会等を通じて生徒の規範意識を醸成し、特別指導件数を5件以内にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSやインターネット上に不適切動画が投稿されニュースになっている。単なる悪ふざけではすまされない。学校でもきちんと教育する必要がある。 ・生活指導がよくできており、生徒は安定した学校生活を過ごしていると思う。今後も、同様に進めて欲しい。
	2 学年	海外修学旅行での学校交流・異文化体験・平和学習等を通じて、異文化理解や異なる歴史観を尊重する姿勢を養う。	修学旅行アンケートにおける各研修プログラムの満足度90%以上にする。	学校交流95%、マリンスポーツ79%、選択体験コース84%の満足度で全体を通じて87%の満足度であった。	63.6	36.4	0.0	0.0	3.6	A	海外修学旅行で得た経験とエネルギーは今後の学校生活をより充実させるものと確信している。	
	3 学年	積極的な生徒指導を実践し問題行動を未然に防ぐとともに、特別指導件数を減少させる。	特別指導件数を年間5件以内にする。(H29:2学年8件)	中間報告以降に3件問題行動が発生し、年間で特別指導は6件となった。	0.0	72.7	27.3	0.0	2.7	B	最高学年として積極的な生徒指導を実践し問題行動を未然に防ぐとともに、特別指導件数を減少させる。	
	生徒指導	遅刻指導・服装指導・携帯指導や登下校指導を徹底し、主体的・自律的な基本的生活習慣の確立を目指す。	問題行動による特別指導5件以内、いじめの発生件数0を目指す。	特別指導は計11件発生し、22名の生徒に指導を行った。指導を受けた生徒には、反省と生活態度等の改善が見られた。	0.0	21.4	78.6	0.0	2.2	C	生徒の生活実態や精神状態に常に気を配る。特にSNSの利用に関しては、様々な場面で注意喚起を行う。	
		教員が生徒個々に真に関わる時間を少しでも多く持つよう、今年度も引き続き業務の合理化に取り組む。	特別指導件数15件以内にする。(H28:25件 H29:27件)	特別指導件数15件以内にする。(H28:25件 H29:27件)今年度21件。生徒が社会的なモラルをよく理解できるようになってきている。	0.0	28.6	71.4	0.0	2.3	C	最終報告をもとに考え、指導件数が更に減ることを期待している。一方でSNSによる人間関係の構築には要注意。	
②生徒会活動やボランティア活動を通じた自己有用感の育成	生徒指導	学級役員の役割を明確にし、学校全体に役立てる。生徒に責任感を持たせることで、自己有用感へと繋げる。風紀委員:私物持ち帰りの管理・図書委員:図書貸出業務・体育委員:授業リーダー及び体育祭運営・文化委員:文化祭運営	生徒委員会の活動回数を年間50回(週2回)にする。また各種行事の運営を100%行う。	これまでの取り組みによりマナー意識が向上しているように思われる。自己中心的な考え方からの脱却を目指せる状態にはある。	13.3	86.7	0.0	0.0	3.1	B	登下校中の更なるマナーの向上により、普段から周囲の他者に気遣いができるようになる仕組みを考えていく。	
	特色推進	外部からの要請があれば、ボランティア同好会、ひがだねボランティアチームが出向き、多くの方々に喜んでもらう活動を行う。	H29年度は、30回以上の校外活動を実施する。	ボランティア同好会・有志によるひがだねボランティアメンバーは、校外校内問わず、細かいところにまで気配りしながら活動できるようになった。	66.7	33.3	0.0	0.0	3.7	A	ボランティア同好会とひがだねボランティアメンバーの区分けに、今後の課題はある。	
③他者の人権を尊重し、異なる文化や生き方を理解しようとする態度の涵養	総務	講演会や授業、HR等を通じて人権教育を行う。	各学年、又は全学年で年間3回以上人権教育を行う。	ボランティア活動やワークキャンプ等を通して自分とは違う立場や考え方に対する理解を深めることができた。	0.0	35.7	64.3	0.0	2.4	C	人権教育の捉え方も各教科での指導であったり、ボランティア活動、地域とのふれあいの中での体感であったりと形も様々である。それらをまとめて計画的に行えるようにしたい。	
④自らの命を守り、緊急時に主体的に行動できる生徒を育む防災教育の推進	総務	避難訓練、防災講演会、防災対策等の行事を通じて自助の意識を高めさせる。	火災、地震とそれぞれの避難訓練を年1回ずつ行い、地域との連携で訓練及び防災対策についての協議を行う。	火災避難訓練を1学期に、水平避難訓練を2学期に行った。地域合同防災会議を開催し地域とのつながりも深めることが出来た。	64.3	35.7	0.0	0.0	3.6	A	これまで地域合同防災会議を中心に話合われた内容を参考に防災教育を行ってきたが、今後は新たな観点で地域の防災活動を捉えたい。	

(3) 心身ともに健康で、社会の変化に柔軟に対応できる生徒の育成

項目	部・学年	目標(課題)	評価指数	最終報告	A	B	C	D	スコア4点	最終評価	次年度へ向けた展望	学校評議員・学校関係者評価委員の提言
①社会とつながり自立した生き方について考えるキャリア教育の推進	進路指導	2学年夏季体験学習において特に就職コースのインターンシップ内容の充実を図る。	生徒の事後アンケートにおける満足度を90%以上とする。	今年度の生徒アンケートの満足度は97%であった。自分自身の進路決定に役立つかという質問では、99%の生徒が役立ったと回答した。また、お世話になった企業様からも好評で、次年度もまた受け入れたいとの返事をいただいている。	25.0	68.8	6.3	0.0	3.2	B	探究的な学びに対応した指導計画をより一層深めたい。	・人と関わることで豊かな人間形成に繋がるので、引き続き活発な活動を。 ・各分掌で、それぞれ工夫をこらして取り組んでいることがよくわかる。生徒に様々な体験を継続してさせて欲しい。
	1学年	東北ボランティアやワークキャンプ等の体験的なプログラムへ積極的に参加させる。	東北ボランティア・ワークキャンプへの参加人数を30名以上にする。	東北ボランティア7名、ワークキャンプ7名のふれあい看護体験11名の参加であった。	14.3	78.6	7.1	0.0	3.1	B	夏季体験学習や修学旅行を通じて、自身と社会のつながりを感じさせ、自己の将来について考えさせる。	
	2学年	夏季体験学習を始めとする各種の校外学習プログラムへの参加を通じて、大学・専門学校や企業に対する理解を深め、自身の進路実現に結び付けさせる。	夏季体験学習アンケートにおける各体験プログラムの満足度90%以上にする。	夏季体験学習アンケートにおける各体験プログラムの満足度は97%であった。	70.0	20.0	10.0	0.0	3.6	A	夏季体験学習を通じて、大学・専門学校や企業に対する深めた理解を、自身の進路実現に結び付けさせる。	
	3学年	手帳の活用を促し、自己管理の必要性を意識させ、スケジュール管理を習慣づける。卒業後の生活を見直し、税や資産運用に関する知識や、有権者意識を啓発する。	手帳による自己管理、時間管理の徹底を図り、手帳の持参率80%以上を目指す。	入試スケジュール管理や面接ノート活用など、進路実現につなげることができた。	0.0	78.6	21.4	0.0	2.8	B	新たな紙ポートフォリオを含め、自身の活動に関するデータを蓄積して進路実現につなげる仕組みを確立させる。	
②政治的教養を高め、社会に主体的に関わろうとする態度の育成(教科)	地公	学習内容を日常生活に関連付け、興味関心を持たせる。	毎授業で、時事の話題を取り上げる。	現代社会の授業では、単元内容と結びつけて、時事的なテーマをとりあつかった。	27.3	63.6	9.1	0.0	3.2	B	地理歴史科の授業においても、現在の課題と結びつけて考えることには意義があるが、今年は不十分であったので次年度の課題としたい。	
	家庭	新聞記事や時事を用いた課題を単元ごとに設定し、学習内容が社会や自分の生活とかかわりが深いことを理解できるようにする。	課題提出率100%	単元ごとに課題を実施し、未提出がないように指導できた。	28.6	71.4	0.0	0.0	3.3	A	時事的な内容をうまく取り込み、世の中の動きに関心を持てるように、課題内容を精選したい。	
②政治的教養を高め、社会に主体的に関わろうとする態度の育成	総務	講演会等を通じて選挙権についての知識、関心を高める。	年度当初に投票に関する講演会を開催する。(1回以上)	今年度は本校の行事と日程が合わず開催することは出来なかったが、今後実施される選挙の前までには日程調整をしたい。	10.0	20.0	50.0	20.0	2.2	C	講演会以外の形で政治的教養を身につけられる取り組みも考えたい。	

5 活力ある組織づくり

(1) 情報の発信・共有

項目	部・学年	目標(課題)	評価指数	最終報告	A	B	C	D	スコア4点	最終評価	次年度へ向けた展望	学校評議員・学校関係者評価委員の提言
①家庭・地域・中学校等関係機関への積極的な情報発信	総務	メールシステム、ホームページ等で保護者への連絡を行う。	生徒・保護者へメールシステムでの連絡を随時発信(30回以上)する。	必要な場面で適切に活用出来た。	16.7	83.3	0.0	0.0	3.2	B	操作方法も含め、数人の職員が使用出来、ホームページとの連動制より図る。	・教員間の情報共有がよくなされている。 ・保護者に対する情報共有は大変かと思うが、継続しておこなって欲しい。
	保健	保健便りの毎月の発行、カウンセリングの積極的なサポートに努める。	保健便り等は年間12部以上の発行する。	タイムリーな情報を保健便り等を通して情報提供が出来た。	57.1	35.7	7.1	0.0	3.5	A	引き続き定期的に健康に関する正しい情報を発信していきたい。	
	特色推進	ブログ、ホームページ等で校内活動の発信を各行事ごとに行い、学校紹介動画を作成しHPに掲載する。	行事ごとにできるだけ早くブログを更新する。	学校紹介ムービーの編集もそろそろ仕上げ段階に入り、年度末にはyou tubeを利用して、公開したい。	69.2	30.8	0.0	0.0	3.7	A	ブログのリニューアルも、今後の課題となるが、現状のwordpressも使い勝手が良く、どのようにするか検討する1年になるだろう。	
	1学年	学年通信の定期的な発行により、家庭への情報発信を密に行う。	学年通信の発行年間10回以上行う。	回数よりも、情報発信のタイミングを適切に行う必要がある。	0.0	28.6	50.0	21.4	2.1	C	学年通信の定期発行に加えて、修学旅行についても情報を発信していく。	
	2学年	学年通信「昴」やLHR・面談等を通して、積極的に生徒や保護者に情報発信を行う。	月1回以上、学年通信を発行。期間を限定せず、随時主任および担任による面談を実施する。	月1回以上、学年通信を発行している。また、10月から生徒による修学旅行新聞を5部発行した。また、担任・主任による面談は随時実施した。	60.0	30.0	10.0	0.0	3.5	A	次年度も学年通信「昴」やLHR・面談等を通して、積極的に生徒や保護者に情報発信を行う。	
②学年内・学年間・専門部内・専門部間等学校全体で情報を共有	総務	イントラ(校内ネットワーク)を活用し、朝の打ち合わせや職員会議を円滑に行う。	職員連絡や会議内容の50%以上をペーパーレスで行う。 職員会議を職員室PCを利用し開催する。	一年を通して職員会議を職員室で行うことが出来た。	41.7	50.0	8.3	0.0	3.3	A	広さのある職員室で意見交換も行いやすい環境も備えておきたい。	

(2) 教職員の意識の高揚

項目	部・学年	目標（課題）	評価指数	最終報告	A	B	C	D	スコア4点	最終評価	次年度へ向けた展望	学校評議員・学校関係者評価委員の提言
①計画的な職員研修の実施	保健	AEDを用いた心肺蘇生法講習会、アレルギー対応としてのエビベン使用方法、カウンセリング研修会等職員の知識や意識の向上を目指す	職員の参加100%になるようにする。	心肺蘇生法（AED使用、エビベントレーナー使用）は講習日程を大幅に増やし、職員全員が実施することが出来た。	80.0	13.3	6.7	0.0	3.7	A	次年度も全員が実施出来るよう日程の工夫、内容の充実を図りたい。	・目標を常に持ち続けることが必要。教師が諦めてしまうと生徒は伸びない。強い意志を持って取り組んで欲しい。 ・教育改革の中で、今後どうすべきかについて情報を収集し、実際に教員は、どのような教育をすべきなのかを考えて行動して欲しい。
	学力向上委員会	学習指導要領の改訂や高大接続改革に関する各種説明会・フォーラムに積極的に出席し、情報を収集するとともに、研修会を開いて、その還元・共有を図る。	研修資料をその都度データ化して共有する。必要に応じて研修会を実施する(年間3回以上)。	第6回・第7回高大接続改革フォーラムに参加。資料をPDFファイル化して共有。研修会は未実施だが、年度末に実施予定。	6.3	68.8	18.8	6.3	2.8	B	新学習指導要領完全実施に向けて、その趣旨の理解を深め、新しい学力観に即応した指導法を探究していきたい。	
		主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、学力の三要素をバランスよく取り入れた授業のあり方を検討・研究する。 公開授業を積極的に実施し、その後の検討会や見学した教員による評価、生徒アンケート結果をもとに、授業改善を図る。	各教科で公開研究授業を年3回以上実施する。各学期に1回以上、授業アンケートを実施する。	普段のオープン授業制度に加え、1学期は6/25(月)～29(金)、2学期は10/29(月)～11/2(金)、3学期は2/4(月)～2/8(金)に、それぞれ公開授業週間を実施した。授業アンケートについては、各教員の判断で適宜実施した。	11.8	64.7	17.6	5.9	2.8	B	各種フォーラムや研修会、先進的な取り組みをしている学校の説明会等に積極的に参加、情報収集に努め、全教職員に還元するとともに、校内研修を企画して、本校に合った授業方法を模索していきたい。	
②部・委員会・学年及び各教科の目標とその成果と課題の明確化	校務運営委員会	各部・学年の目標を明確にし、年度末にその成果と課題を明らかにする。	各部・学年の数値目標を設定させる。	各部・学年・委員会で評価指数の数値化を試みたが、一部数値化が難しい項目があった。	5.9	70.6	11.8	11.8	2.7	B	目標に即した評価指数になるように、さらなる改善を図る。	
	教育課程委員会	各教科の目標を明確にし、年度末にその成果と課題を明らかにする。	教科の数値目標を設定させる。	各教科の最終報告より、その成果と課題を明らかにできた。	7.1	78.6	7.1	7.1	2.9	B	フィードバックを十分に行い、次年度に向けて取り組みを継続したい。	
③心身の健康と適正な勤務時間の維持	校務運営委員会	業務の分担を各部・学年で徹底させる。	部長・副部長、主任・副主任を中心に業務の分担を整理し、構成員からの業務分担に関する評価を80%以上にする。	一部教職員への業務負担の偏りを是正するには至らなかった。	11.1	77.8	11.1	0.0	3.0	B	学校全体として業務に取りかかれるように、校務運営委員会のさらなる活性化を図る。	
	衛生委員会	勤務時間の適正化をすすめ、ワークライフバランスの促進を図る。	19時以降の職員残存数を0にする。	管理職が率先して早めに帰宅するなどの方策を試みたが、遅くまで残る状態はそれほど改善されなかった。	7.1	21.4	35.7	35.7	2.0	C	定時退庁日の設定を工夫し、職員が早く帰れる環境をつくる。	
		年次休暇の取得を奨励する。	1人年間10日以上年次休暇を取得する。	超過勤務過多にならないよう、管理職が業務工夫改善を行う。	8.3	41.7	41.7	8.3	2.5	B	夏期休業中に閉庁日を設定するなど、休暇を取得しやすい環境をつくる。	

(3) 教育環境の整備と学校評価の推進

項目	部・学年	目標（課題）	評価指数	最終報告	A	B	C	D	スコア4点	最終評価	次年度へ向けた展望	学校評議員・学校関係者評価委員の提言
①どの生徒も安心して通える教育環境づくり	1学年	保護者や部活動顧問等と連携して生徒の様子に常に気を配り、声掛けや面談をこまめに行うことで、人間関係のトラブル等を未然に防ぐ。	いじめの発生件数0件にする。	いじめの発生件数は0である。	50.0	50.0	0.0	0.0	3.5	A	今後も丁寧な面談等を行い、いじめ発生を0件に抑えたい。	・いじめ発生件数ゼロは大いに評価する。ゼロの継続には、学校と生徒の強い信頼関係から生まれるものと信じている。これからも期待している。 ・継続してこれらの内容を進めて欲しい。
	2学年	生徒の様子に常に気を配り、声掛けや面談をこまめに行うことで、人間関係のトラブル等を未然に防ぐ。	いじめの発生件数0件にする。	いじめの発生件数は0である。	60.0	40.0	0.0	0.0	3.6	A	生徒の様子の変化に気を配り面談等を通して早期発見に努める。	
②学校評価の検証と学校改善	総務	PDCAサイクルを完成させる。特にCAについての検証を十分に行う。	年2回の学校評価を行い、中間評価でCランク以下の項目について最終評価ではBランクにする。学校評議員会を年3回開催する。	学校評議員会でのご意見を頂きながら、各学期ごとに振り返り、今後の課題をより明確に出来た。	9.1	72.7	18.2	0.0	2.9	B	学校全体の見通しを立てたうえで、本校の運営の課題を見出したうえで取り組んで行きたい。	

平成30年度 目標と評価指数 【年度末報告】

	A	B	C	D	平均 (4点満点)
(1)「確かな学力」を身につけ、「夢」や「志」の実現に粘り強く挑戦する生徒の育成	8	13	0	0	3.4
(2)思いやりの心と規範意識を持ち、共生社会の実現を目指す人間性豊かな生徒の育成	3	3	3	0	3.0
(3)心身ともに健康で、社会の変化に柔軟に対応できる生徒の育成	2	4	4	1	2.6
【活力ある組織づくり】					
(1)情報の発信・共有	4	1	1	0	3.5
(2)教職員の意識の高揚	1	6	1	0	3.0
(3)教育環境の整備と学校評価の推進	2	1	0	0	3.7

A B C D
よくできた まあまあ あまりで 全くでき
できた きなかつ なかった